

朝霞市公共施設等マネジメント実施計画（第2期）における改修等の優先順位及び対象施設の考え方（案）

改修等の優先順位の評価指標の考え方

長寿命化が可能な施設の改修等の優先度については、公共施設を長く安全に利用していくための「施設健全度」と、施設の特性や利用状況等を加味した「施設重要度」の2軸で評価する。

評価結果を踏まえて、施設健全度・施設重要度を各3段階（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、i・ii・iii）に分類し、クロス集計することで総合的に優先順位のグループを設定しています。下記の通りグループ1～9の順で優先度が高いものとする。

① 改修等による安全確保

- ・将来にわたって長く、安全に使用
- ・劣化の度合いを踏まえた適切なサイクルでの改修等

指標1 施設健全度

- ・施設の劣化状況を健全度とし、総合得点化
- ・健全度が低い施設から優先的に改修

② 改修等による利便性向上

- ・公共施設のサービス内容や、災害時の拠点、利用状況など、多面的な役割がある
- ・サービスの質を高めていくため、社会的ニーズに対するハード面での対応

指標2 施設重要度

- ・サービスの特性、災害時の位置づけ、利用の多寡、市民意向等の多面的な要素から得点化
- ・重要度が高い施設から優先的に改修

各指標を基に総合的に評価

			施設健全度		
			低 高		
			I	II	III
施設重要度	高	i	グループ1	グループ4	グループ7
		ii	グループ2	グループ5	グループ8
	低	iii	グループ3	グループ6	グループ9

第2期計画の対象施設の考え方

■施設数の検討

第1期計画は5年間で18施設を位置づけて取り組んでいる。

第2期計画は10年間であるため、第1期の施設数の倍程度の施設数と考える。



第1期において対象としていた施設（18施設）については、今回の優先順位の見直し結果に関係なく、継続して対策が必要だと考える。そのため「第1期引継」として第2期の対象としている。

■第2期の対象施設


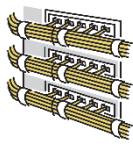
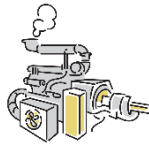
上記の考え方を踏まえて、1グループから5グループまでの施設数に「第1期引継」を加え、34施設程度と考える。※詳細は別紙2のとおり

施設健全度

屋根・屋上、外壁等、内部仕上げ（内壁、床等）、電気設備（高圧受電設備、昇降機等）、機械設備（空調・換気設備、給排水設備等）の部位別の劣化状況を経過年数及び施設点検結果によりランク（A～D）分けし、100点満点で評価。点数が低いほど、劣化が進んでいる。

優先度の分類について、健全度 50 点以下の施設を優先度Ⅰ、健全度 51～89 の施設を優先度Ⅱ、健全度 90 以上の施設を優先度Ⅲと分類している。

《例》



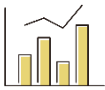


【屋根・屋上】	【外壁】	【内部仕上げ】	【電気設備】	【機械設備】	《施設健全度》
D	B	A	C	C	60
	少量の雨量でも雨漏り有、数カ所にクラック有、錆汁は見られず、内壁・床損傷無し		 設置から 40 年以上	 設置から 40 年以上	↓ 優先度Ⅱ

施設重要度

“施設重要度”は加点方式となっており、点数が高いほど施設の位置づけとして優先度が高い。加点の指標と指標としては①代替ができない施設②避難場所の指定③利用状況④バリアフリー状況⑤市民意向がある。

優先度の分類については、点数のばらつきを踏まえ、11 点以上を優先度Ⅰ、10 点～6 点を優先度Ⅱ、5 点以下を優先度Ⅲと分類している。

《例》

【代替ができない施設】	【避難所の指定】	【利用状況】	【バリアフリー対応】	【市民意向】	【施設重要度】
5 点	5 点	5 点	2 点	2 点	19 点
 セーフティネットの役割有	 防災活動拠点	 利用者多数	 BF 充実度低い	 ハード面で使いにくい	↓ 優先度Ⅰ